

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

|      |                   |     |       |           |   |
|------|-------------------|-----|-------|-----------|---|
| 法人名  | (有)アオキ トゥー ワン     | 代表者 | 青木 伸吾 | 法人・事業所の特徴 | 「通い」「泊まり」「訪問」のすべてのサービスをご自宅から近くの一つの事業所で利用することができます。顔なじみのスタッフが生活を全体的にサポートし、365日24時間、必要なサービスを必要な時に提供できるのが小規模多機能型居宅介護の特徴です。 |
| 事業所名 | 小規模多機能型居宅介護 たがらの家 | 管理者 | 弓田 敬春 |           |   |

|     |       |          |           |     |       |            |       |       |     |    |
|-----|-------|----------|-----------|-----|-------|------------|-------|-------|-----|----|
| 出席者 | 市町村職員 | 知見を有するもの | 地域住民・地域団体 | 利用者 | 利用者家族 | 地域包括支援センター | 近隣事業所 | 事業所職員 | その他 | 合計 |
|     | 1人    | 1人       | 人         | 人   | 1人    | 人          | 人     | 3人    | 人   | 6人 |

| 項目                      | 前回の改善計画                       | 前回の改善計画に対する取組み・結果  | 意見   | 今回の改善計画  |
|-------------------------|-------------------------------|--|--|--|
| A. 事業所自己評価の確認           | ※このフォーマットでの事業所自己評価は今回が初めてとなる  | ※このフォーマットでの事業所自己評価は今回が初めてとなる   | 特になし   | ・職員が改善点について話し合う機会を作り、意見交換をする事により良いサービスに繋げる。              |
| B. 事業所のしつらえ・環境          | 事業所は、清潔で過ごしやすい環境が保たれている。      | 事業所内において、利用者が過ごす居室や共有部分は、必要最低限過ごしやすい環境を保っている。夜間帯などを除き、玄関施錠は行っていない。       | ・玄関を常時開放しているということは、それでも安全を確保できる体制ができているからだろう。  | ・整理整頓、衛生管理を心がけ、利用者にとって快適で居心地の良い事業所作りを意識する。               |
| C. 事業所と地域のかかわり          | 事業所は、地域と関わりを持って運営している。        | 介護学べるサロンの開催や、認知症何でも相談窓口を行っているが周知不足が否めない。カレーの日(地域の方にカレーを振る舞うイベント)の再開は検討中。 | ・そもそも、こうした相談窓口があることを知っているか、知らないかは大きく違う。知人以外にも広く周知できれば良い。                                 | ・利用の有無に関わらず近隣住民の介護相談を受けられるようにする。気軽に相談できる環境づくりや、周知を行っていく。 |
| D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み | 事業所は、地域と関わりを持って利用者を支援している。    | 運営推進会議だけではなく、地域内の相談や災害時の避難場所として地域と関わり続けている。                              | ・地域に出向くということは、家族でもなかなかできない。難しいことだが関わり続けることが大切だと思う。                                       | ・地域住民や民生委員と連携をとりながら、可能な限り利用者の在宅生活が維持できるよう努める             |
| E. 運営推進会議を活かした取組み       | 運営推進会議を通して、地域の意見や困りごとを確認している。 | 運営推進会議を通して、地域の意見や困りごとを確認している。ただし「地域住民・地域団体」の参加は乏しく周知が必要。                 | 特になし   | ・普段とは異なる職員も会議へ参加することで、参加者の意見や提案を業務へ反映させる。                |
| F. 事業所の防災・災害対策          | 災害時、地域住民の受け入れ態勢ができている。        | 非常用電源など災害設備は整っており緊急避難場所としての機能は確保している。定員や収容能力には限りがあり、住民への周知にも課題がある。       | ・防災訓練に地域住民も参加することも想定したが、大規模な訓練ではないので難しい(参加者がメリットを感じにくい)<br>・防災意識が地域の中で高まっていないと具体的な計画も難しい | ・運営推進会議を通し、訓練の様子を報告する。訓練予定を運営委員に連絡し参加を計る。                |